

三菱UFJフィナンシャル・グループ
株主の皆さまへ

第2期(平成18年4月1日~平成19年3月31日)



Quality for You 
MUFG

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、平成十八年度のグループの業績などを説明した「株主の皆さまへ」をお届けいたします。

コンプライアンス態勢の強化について

国内外でコンプライアンス(法令等遵守)にかかわる問題が複数発生し、株主の皆さまにはご迷惑・ご心配をおかけしましたことを、あらためてお詫び申し上げます。

既に、三菱東京UFJ銀行を中心に、国内の営業拠点や海外へのコンプライアンス担当者の配置、全職員への研修などを実施するとともに、持株会社のリーダーシップの強化を図っております。今後、こうしたことが二度と起こらぬよう、グループ全体で真に実効性のある態勢を構築し、皆さまからの信頼回復をめざしてまいります。

平成十八年度の業績について

平成十八年度は、昨年十一月に発表した業績予想を若干上回る八千八百九億円の連結当期純利益を計上するこ

とができました。特に、昨年七月のゼロ金利解除を受けて、下期には預貸金利回り差の拡大傾向が鮮明になるなど、収益環境に変化の兆しが見えた一年だったといえます。

こうしたなか、昨年十一月に「配当金額の継続的な増加に努め、中期的に配当性向を20%程度に高める」と皆さまにお約束いたしましたとおり、平成十八年度の普通株式期末配当を、一株あたり千円増配の六千円とし、平成十九年度はさらに年間で三千円増配の二万四千円の配当予想とさせていただきます。

※平成十九年九月末に実施予定の株式分割後は、普通株式株あたり年間十四円となります。

中期経営計画について

MUFグループでは、本年二月に、平成十八年二月に発表した中期経営計画を見直し、「平成十九年度版中期経営計画」を発表いたしました。冒頭の「コンプライアンス態勢の強化」に加え、以下の三点を重点戦略として取り組んでまいります。

1. 成長戦略による時価総額グローバルトップ5の実現

平成二十一年度の財務目標として、連結営業純益

約二・五兆円、連結当期純利益約二・兆円、経費率40%台
半ば、連結ROE15%程度の達成をめざしてまいります。
特に、今後一層の市場成長が期待されるリテール部門に
おいては、積極的に経営資源を投入していきます。また、
法人部門では、本年九月末に予定している三菱UFJ証
「券の完全子会社化を契機に、銀行と証券がより一層緊密
に連携し、高度なサービスを提供していくほか、成長が引
き続き見込めるアジアを中心とした出資・提携戦略を
展開することで、中期的には海外収益比率20%をめざ
します。



2. システム本格統合の完遂と統合効果の着実な実現
引き続き、万全な態勢で統合プロジェクトを進め、安全・
確実なシステム統合を実現し、統合効果の早期実現を
めざしてまいります。

3. ブランド力の維持・強化

お客さまから、「信頼」「サービスの質」で高いご評価をい
ただけるよう、さまざまな取り組みを進めるとともに、
企業の社会に対する責任をしっかりと果たしていくことで、
MUFJのブランド力向上に努めてまいります。
役員一同、株主の皆さまのご期待にお応えするよう
努力してまいりますので、引き続きご支援のほど、よろし
くお願い申し上げます。

平成十九年六月

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

取締役社長

畔柳信敏

コンプライアンス態勢の強化について

国内外でコンプライアンス(法令等遵守)にかかわる問題が発生したことを踏まえ、内部管理態勢における持株会社のリーダーシップを一層強化するとともに、海外を含めたグループコンプライアンス態勢を整備・強化していきます。

持株会社のリーダーシップ強化

持株会社によるグループ会社に対する経営管理機能の強化を軸とした態勢の整備を実施しました。

具体的には、従来リスク管理も併せて担当していたコンプライアンス統括部担当役員を、「チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO)」として独立化、グループ全体のコンプライアンスに関する事項が速やかにCCOに集約される態勢としました。

また、持株会社のCCOを議長とし、グループ各社のコンプライアンス担当役員が参加する

「グループCCO会議」を設置しました。この会議を通じて、グループ各社のコンプライアンスに関する

情報を共有化し、必要に応じ、問題事例等の対応策をグループ全体に展開していきます。

こうした取り組みに加え、内部通報制度を設置しています。平成十九年五月には、グループ各社の内部通報制度と並存する形で、社外にグループ会社の役員が利用できるMUFGグループ・コンプライアンス・ヘルプラインを設置しました。通常の業務ラインによる報告ルートに加えて、こうした制度を設置することで、コンプライアンス違反の早期発見、グループCCO会議などへの適時適切な報告を通じた自浄能力の発揮につなげていきます。

営業拠点における取り組み

グループ全体の枠組み整備と平行し、グループ会社の営業現場での対応力の強化に努めています。

MUFGレポート

株券の電子化

平成二十二年一月に導入が予定されている株券の電子化。

株券をお持ちの方に影響の大きいこの制度変更には、グループ全体で取り組んでいます。

株券の電子化とは、株式取引の決済の合理化・迅速化等を目的に、すべての上場企業の株券が電子化（ペーパーレス化）される制度です。これにより、印刷された株券は有価証券としての価値がなくなり、株主としての権利（配当や株主優待を受ける権利、議決権等）は、証券保管振替機構や発行会社が管理するデータベース上で電子的に管理されることとなります。

株券の電子化により、これまでご自宅や貸金庫等で保管していた株券や名義書き換えをしない株券については、売却時に手続きが煩雑になるなど、特に注意が必要となります。

三菱UFJ証券では、株券をお持ちのお客さま

に向けて、株券電子化に関するさまざまな情報提供を行っています。証券用語などに不慣れなお客さまにも親しみやすいよう、専用のマスコット「おあずかりマスター」を使って、ホームページや新聞広告、店舗窓口で情報提供を行っています。昨年十一月には、「株券おあずかり相談ダイヤル」を設置。多くのお問い合わせをいただいています。

また、カブドットコム証券では「お客様サポートセンター」で、三菱東京UFJ銀行の店舗窓口でも証券仲介口座を通じて、それぞれお客さまのご相談を受け付けています。

MUFGレポート

海外拠点紹介第二回〜ポーランド三菱東京UFJ銀行

日本企業の進出が相次ぐ中央ヨーロッパ。ここでもMUFGの強さが光ります。
今回ご紹介するのは、ポーランド三菱東京UFJ銀行です。

ポーランド三菱東京UFJ銀行は、平成十四年四月に営業を開始。法人のお客さま向け預金・融資業務、ポーランドズロチ・ユーロ・米ドル・日本円等の為替取引やキャッシュマネジメントサービスなど、幅広いサービスを提供しています。

ポーランドを含む中東欧は、EU市場の生産拠点として注目を浴びており、自動車、家電関連を中心に日系企業の進出が急増しています。特にポーランドは、物流の要であるドイツに国境を接し輸送コストが削減できること、低コストで質の良い人材を確保できることから、昨年来、家電メーカーが相次いで液晶テレビ関連



の生産拠点を新設しています。

近年、ヨーロッパでも地上デジタル放送の普及により、大型液晶テレビの人気が高まっており、人口約四・九億人を抱えるEU市場は、日系企業にとってグローバル戦略上欠かせない市場と

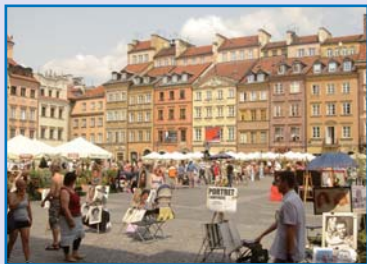
なっています。ポーランド三菱東京UFJ銀行は、今後もポーランド唯一の邦銀として、進出

企業のサポートを行っていきます。

シヨパンの国

ポーランドの生んだ偉人というとコペルニクス、シヨパン、キュリー夫人が挙げられますが、シヨパンのピアノ曲は今もポーランド人に親しまれています。五年ごとにワルシャワで開催されるシヨパン・コンクールは若手ピアニストたちの登竜門として日本人も多く参加します。ワルシャワ市内

ワジェンキ公園のシヨパン記念像の前では、春から夏にかけての毎週末に無料野外ピアノコンサートが開かれ、散策の足を止めて市民がシヨパンの調べに耳を傾けています。



世界遺産のワルシャワ旧市街広場

スープの国

ポーランド料理というと具だくさんのスープ、ピエロギ（ポーランド風餃子）、ピゴシュ（キャベツとソーセージの煮込み）など腹持ちのよい料理が主ですが、なかでも発酵したライ麦をベースにソーセージと茹で卵の切り身を具にしたスープ「ジユレック」は、日本の味噌汁に通じる味わいで当地を訪れる日本人の人気メニューです。各地方、

各レストランごとに独自のアレンジがあり、気取らない店ではパンをくりぬいた器で供されます。パンまですべて食べてしまうと、もう他の料理はお腹に入りませんのでご用心ください。



現地からご紹介します

平成18年度の業績について

決算のポイント

- ➡ 連結当期純利益は、前年度に多額の「益」を計上した与信関係費用の総額が1,869億円の「費用」となったことなどにより、前年度比3,007億円減少の8,809億円
- ➡ 不良債権比率は、平成17年度末比0.6ポイント低下し1.46%
- ➡ 連結自己資本比率は12.54%と十分な水準を確保

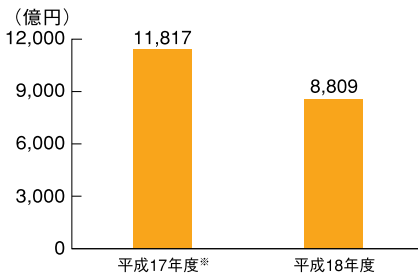
〈損益について〉

連結粗利益は、投資信託関連収益が好調だったことや、子会社収益の増加などにより、前年度比1,158億円増加の3兆7,267億円となりました。

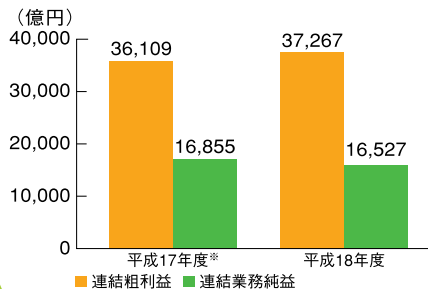
一方、子会社経費の増加などにより経費も前年度比1,487億円増加したため、連結業務純益は、前年度比328億円減少し、1兆6,527億円となりました。

また、前年度は3,897億円の「益」となった与信関係費用の総額が、平成18年度は、1,869億円の「費用」となったことなどにより、連結当期純利益は、前年度比3,007億円減少し、8,809億円となりました。

連結当期純利益

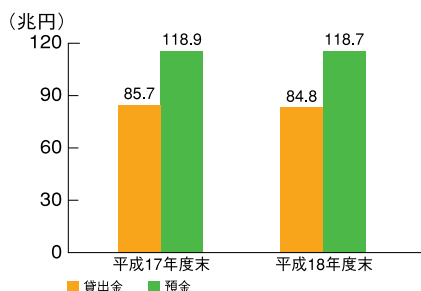


連結粗利益・連結業務純益



※平成17年度は、MUFGおよび旧UFJホールディングス合算の計数を表示しています。

貸出金・預金

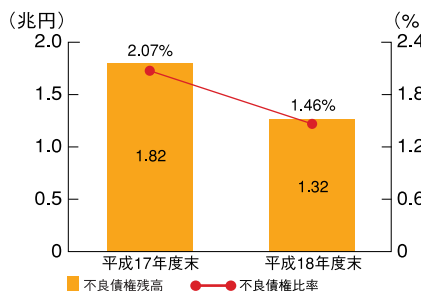


〈資産・負債について〉

貸出金は、海外貸出が増加したものの、国内店貸出の減少を主な要因として、平成17年度末と比べ、0.9兆円減少し、84.8兆円となりました。

預金は、平成17年度末比、ほぼ横ばい(平成18年9月末比では3.1兆円増加)の、118.7兆円となりました。

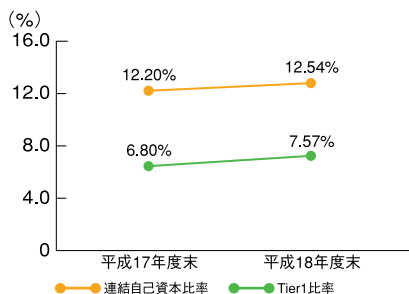
不良債権残高・比率



〈不良債権の状況〉

不良債権比率は、お取引先の業況回復に伴う債務者区分の上方遷移(格上げ)や、処理の進捗などにより、平成17年度末と比べ、0.60ポイント低下の1.46%となりました。

連結自己資本比率



〈連結自己資本比率の状況〉

連結自己資本比率は12.54%、Tier1比率7.57%となり、財務基盤はさらに強固になっています。なお、平成18年度末から新しい自己資本比率規制(バーゼルⅡ)が適用されています。

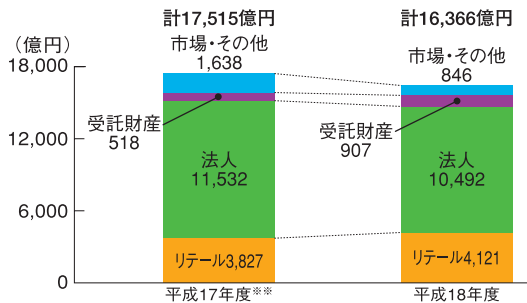
注:平成17年度末は旧自己資本比率規制、平成18年度末は新自己資本比率規制(バーゼルⅡ)に基づく比率を記載しています。

〈部門別営業純益※について〉

平成18年度の営業純益は、前年度比約1,100億円減少の1兆6,366億円となりました。「リテール部門」では、三菱UFJニコスの連結化効果や投信の販売増加が寄与したこと、「受託財産部門」では投信および年金受託の好調もあり、それぞれ前年度比で増加しました。一方、「市場部門」では、外貨金利の上昇による資金調達コストの上昇により、また「法人部門」では、競争激化による貸出利ざやの縮小などから減少となりました。

※営業純益・・・連結業務純益の内部取引消去等の連結調整前の計数（管理ベース、のれん償却前）

〈部門別の営業純益推移〉



※※平成17年度は、MUFGおよび旧UFJホールディングス合算の計数を表示しています。

用語解説

① 自己資本比率とは…

自己資本比率とは、銀行が保有する資産等に対する自己資本の割合で、健全性、安全性を表す重要な指標であり、海外営業拠点を有する銀行は8%以上を維持することが求められています。自己資本比率は、下記の式により計算されます。

自己資本 / (リスクアセット = 信用リスク + 市場リスク + オペレーショナルリスク)

平成19年3月から新しい規制（所謂バーゼルⅡ）が適用されていますが、MUFGでは、当局の承認を得て、信用リスクは基礎的内部格付手法（FIRB）、オペレーショナルリスクは粗利益配分手法を採用しています。

(単位：億円)

損益の状況（連結）	平成17年度*	平成18年度
連結粗利益（信託勘定償却前）	36,109	37,267
うち資金利益	18,579	19,044
うち役員取引等利益	10,997	11,586
営業費	19,253	20,740
連結業務純益 （信託勘定償却・一般貸倒引当金繰入前）	16,855	16,527
臨時損益（△は費用）	△2,513	△1,955
うち与信関係費用	△2,182	△1,961
うち株式等関係損益	609	1,271
経常利益	14,333	14,570
特別損益	6,342	516
うち貸倒引当金戻入益	6,089	93
法人税等十法人税等調整額	7,863	5,288
少数株主利益	993	989
連結当期純利益	11,817	8,809

与信関係費用総額 （信託勘定償却十与信関係費用十貸倒引当金戻入益）	3,897	△1,869
--------------------------------------	-------	--------

資産・負債の状況（連結）	平成17年度末	平成18年度末
資産の部	1,870,467	1,872,810
うち貸出金	857,631	848,319
うち有価証券	485,089	482,076
負債の部	1,772,204	1,767,573
うち預金	1,189,880	1,187,086
純資産の部（平成17年度末は資本の部）	77,278	105,237

連結自己資本比率の状況	平成17年度末	平成18年度末
連結自己資本比率（第一基準）	12.20%	12.54%
Tier1比率	6.80%	7.57%

不良債権の状況**	平成17年度末	平成18年度末
不良債権（金融再生法開示債権）	18,259	13,258
不良債権比率	2.07%	1.46%

* 平成17年度は、MUFGおよび旧UFJホールディングス合算の計数を表示しています。

** 三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、信託勘定の合算です。

リテール部門

コンビニATM利用手数料

引き下げがスタート

三菱東京UFJ銀行は、平成十九年三月から、提携先コンビニATMの平日日中（八時四十五分～十八時）の利用手数料無料化をスタート。

平日日中以外の時間帯についても210円から105円に引き下げを行いました。対象となるコンビニATMは、E-net ATM、セブン

銀行ATM、ローソンATMの約二万三千台です。

現在、貫地谷しほりさんを起用した広告を展開中。平成十九年十月から放映予定のNHK朝の連続

テレビ小説「ちりとてちん」で主役を演じる貫地谷さんが、コンビニATM利用手数料引き下げと、キャッシュカードでの本支店間振込手数料無料サービスを、若さあふれるフレッシュな笑顔で紹介しています。

日本のお客さまに米国の財産を含めた 遺言執行・遺産整理業務サービスを提供

グローバル化の進展に伴い、日本国内のみならず米国に財産を保有するお客さまは年々増加しています。一方、米国における財産の承継・相続手続きは、日本の制度と大きく異なるため、お客さまにとって大きな負担となっています。

こうしたなか、三菱UFJ信託銀行は、平成十九年五月に、米国金融機関ノーザン・トラスト・カンパニーと、日本のお客さまの米国における遺言執行・遺産整理業務に関して業務提携。米国における豊富な経験・専門ノウハウを有する



ノーザン・トラスト・カンパニーの機能を活用して、現地の財産を含めたトータルの遺言執行・

遺産整理業務サービスを提供します。



MUFGでは、多様化する個人のお客さまのニーズにお応えすべく、業務・商品、ネットワークを拡充し、「サービスNO.1」をめざします。

法人部門

北京市より「長城友誼賞」を受賞

三菱東京UFJ銀行は、昭和五十五年（一九八〇年）に諸外国の銀行のなかで初めて北京に駐在員事務所を開設。以来、日系企業の北京市への

進出支援や北京市投資セミナーの開催サポートなどを行ってきました。こうした取り組みが評価され、三菱東京UFJ銀行の北京支店長（当時）の柳岡広和（現アジア本部中国部部长・写真左）が、北京市の経済・社会の発展事業に貢献した外国人を表彰する「長城友誼賞」を受賞しました。平成十八年度（二〇〇六年度）は十五名が受賞。アジアからの受賞者は柳岡のみで、日本の金融関係者では初の受賞となりました。

平成二十年（二〇〇八年）八月のオリンピックに向けて急ピッチで準備が進む北京市。MUFGは、引き続き同市

を引き続き同市



さらには中国全体の金融・経済の発展に貢献し、「国際性No.1」をめざしていきます。

受託財産部門

海外投資家向け

運用商品販売について

三菱UFJ信託銀行は、国内最大級の資産運用

機関として、企業年

金などの分野におい

て株式や債券などの

運用商品からヘッジ

ファンドなどのオル

タナティブ運用商品

まで多様な商品の提

供を行っています。

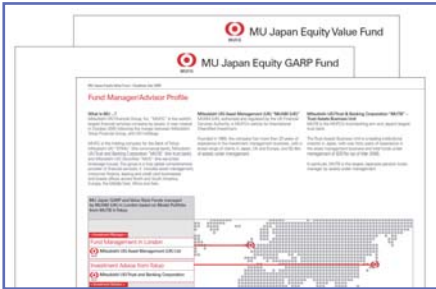
最近では、海外へも

積極的に展開。平成十八年四月には、主に欧州機関投資家を対象とした外国籍の会社型投信（日本株ファンド）を設定し、MUFJグループの海外現地法人による販売を開始しました。また平成十八年十一月には、米国大手運用機関のグローバル投信（世界約二十カ国で販売）に当社の助言する日本株運用商品が組み入れられました。今後もこれまで当社が培ってきた運用力・専門性を活かし、国内外の投資家の資産運用ニーズにお応えしていきます。

社会とともに

MUFJ体験教室を開催

MUFJグループでは、児童養護施設や母子生活支援施設の子どもたちを招待して「MUFJ体験教室」という日帰りイベントを開催していま





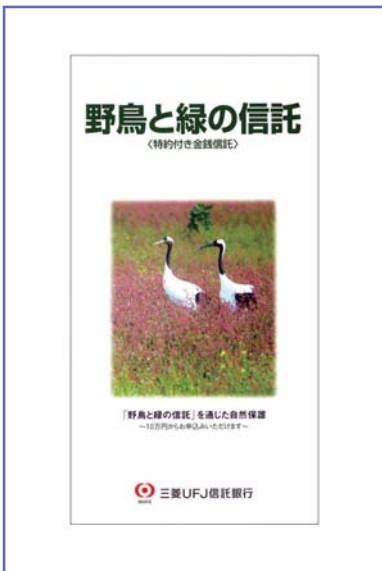
五月には、京都で「生八つ橋」の手づくり体験と水族館を見学。「生八つ橋」の生地を広げる真剣な姿や出来上がって食べる時のうれしそうな笑顔があちこちで見られ、楽しいイベントとなりました。

「野鳥と緑の信託」の販売スタート

三菱UFJ信託銀行は、平成十九年五月に、社会

す。旧三菱東京フィナンシャル・グループ時代から毎年実施している催しで、子どもたちがグループ各社の従業員ボランティアとさまざまな体験活動に参加しています。平成十九年

貢献型の信託商品「野鳥と緑の信託」の取り扱いを開始しました。この商品は、信託ならではの仕組みを利用した、個人のお客さま対象の商品で、金銭信託五年ものにお預け入れいただき、その収益金を財団法人日本野鳥の会に寄付するものです。また、三菱UFJ信託銀行は、「野鳥と緑の信託」の決算時にお客さまの収益金と合わせて同額（半年の下限五十万円、上限二百五十万円）を寄付いたします。三菱UFJ信託銀行は、お客さまの「環境保護」の想いを本商品を通じて未来につなぎます。

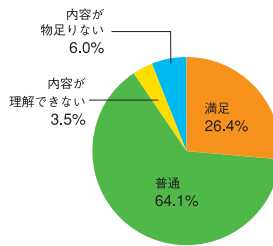


株主アンケート結果のご報告

「株主の皆さまへ第2期中間期」(平成十八年十二月発行)のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果をご報告するとともに、特に多かったご意見・ご質問についてご紹介いたします。

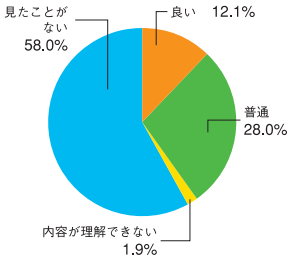
「株主の皆さまへ第2期中間期」への感想

掲載を希望される内容には「株主の皆さまの声」「業績説明の充実」等がありました。今後とも一層の内容充実を図ってまいります。



当社ホームページについて

「見たことがない」が58.0%と最も多く、「普通」28.0%、「良い」12.1%となりました。株主の皆さまにご覧いただける内容・デザインとすべく努力してまいります。



「不祥事のニュースがあるのがつかりします。」

徹底した改善策を希望します。」

ご迷惑・ご心配をおかけしましたことをあらためてお詫び申し上げます。

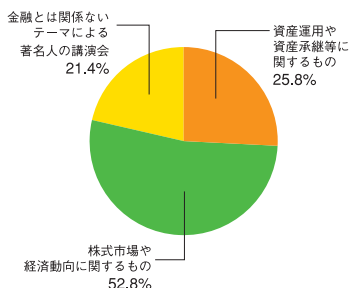
持株会社においてリーダーシップを強化し、グループ全体で真に実効性のあるコンプライアンス態勢を整備・強化しています。詳細につきましては、2ページをご覧ください。

「株主向けセミナーは地方でも開催してほしい。」

株主の皆さま向けセミナーの開催につきましては、いただいたアンケート結果を踏まえ、今後、開催の時期やテーマについて検討してまいります。

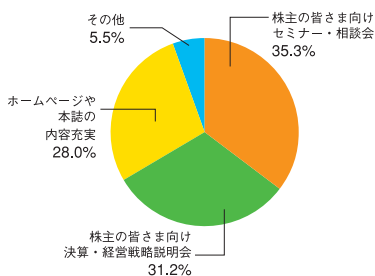
セミナー・相談会の希望テーマについて

「株式市場や経済動向に関するもの」が約50%となりました。今後の参考にさせていただきます。



株主の皆さまとのコミュニケーション手段について

「セミナー・相談会」「決算・経営戦略説明会」へのご希望が多く寄せられました。いただいたご要望を参考に、今後、具体的内容を検討してまいります。



「株主への利益還元を充実してほしい。」

MUFグループは、株主の皆さまへの利益還元を重要な経営課題と位置づけ、配当金額の継続的な増加に努めています。中期的には、連結当期純利益に対する配当性向を20%程度に高めるよう努力していきます。平成十八年度は期初の配当予想を四千元増配し、年間一万一千円としました。平成十九年度はさらに三千元増配し、年間一万四千元とさせていただきます。

※平成十九年九月末に実施予定の株式分割後は、普通株式一株あたり年間十四円となります。

また、本年九月末を第一回基準日として株主優待制度を導入いたします。詳細については、次ページをご覧ください。

そのほかにも本冊子「株主の皆さまへ」に関して「海外拠点紹介はこれからも続けてほしい」「グループ会社の紹介を掲載してほしい」といったご意見をいただきました。頂戴したご意見は、今後の本誌作成やIR（投資家向け広報）活動の参考にさせていただきます。

株主優待制度導入に関するお知らせ

当社では、投資単位の引き下げ（平成19年9月末予定）に加え、株主の皆さまに当社株式をより長期に保有していただけるよう、株主優待制度を導入いたします。

株主優待制度の概要

株主優待制度の名称

「MUFG株主倶楽部」

基準日

平成19年9月30日（日）を第1回基準日とし、以降、毎年9月30日を基準日とします（年1回）。

対象株主

基準日時点の株主名簿および実質株主名簿上に記載されている当社の普通株式を100株（1単元）*以上保有する株主の皆さまを対象とします。

*平成19年9月末の株式分割の実施および単元株制度への移行を前提。現在の株式数では0.1株に相当します。

優待メニューの概要

基準日時点の保有株式数に応じ、MUFGグループの商品・サービスを中心とした優遇メニューを提供します。詳細は、後日当社ホームページ上に掲載するほか、株主の皆さまには、本年12月中を目処に「MUFG株主倶楽部」の案内冊子等でご案内する予定です。

サービス開始の時期

平成20年1月4日（金）より優遇メニューの提供を開始します。

大株主(普通株式 平成19年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	453,940.00	4.17
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	411,318.00	3.78
3 ヒーロー、アンド、カンパニー	348,622.00	3.20
4 日本生命保険相互会社	272,183.70	2.50
5 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)	175,000.00	1.61
6 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	174,831.00	1.60
7 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	167,042.00	1.53
8 ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー-505103	159,871.00	1.47
9 明治安田生命保険相互会社	137,796.81	1.26
10 ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	135,184.00	1.24
合計	2,435,788.51	22.42
発行済株式総数	10,861,643.79	100.00

- (注) 1. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
 2. 上記のほか、当社が保有している普通株式の自己株式651,793.31株があります。
 3. ヒーロー、アンド、カンパニーは、ADR(米国預託証券)発行のため預託された株式の名義人です。

上場証券取引所

東京、大阪、名古屋、ニューヨークの各証券取引所

株式事務のご案内

定時株主総会基準日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
配当金受領株主確定日	期末配当金3月31日 中間配当金9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、決算公告は当社ホームページに掲載 (ホームページアドレス http://www.mufj.jp/)

株式事務取扱場所・取次所

株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問い合わせ先・郵便物送付先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-232-711(通話料無料) (受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店

お知らせ

住所変更、配当金振込指定・変更、
 端株買取請求、端株買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続
 依頼書のご請求は、株主名簿管理人の
 テレホン自動音声応答サービス
0120-244-479(通話料無料)
 で24時間承っておりますので、ご利用
 ください。

平成19年6月28日現在

取締役会長（代表取締役）

たまごし りょうすけ
玉越 良介

取締役副会長（代表取締役）

うえはら はるや
上原 治也

取締役社長（代表取締役）

くろやなぎ のぶお
畔柳 信雄

取締役副社長（代表取締役）

ながやす かつのり
永易 克典

専務取締役（代表取締役）

わたなべ よしひろ
渡辺 喜宏

専務取締役（代表取締役）

みずの としひで
水野 俊秀

専務取締役（代表取締役）

さいとう ひろし
斎藤 広志

取締役

やすだ しんたろう
安田 新太郎

取締役

あおき ひろひさ
青木 広久

取締役

あきくさ ふみゆき
秋草 史幸

取締役

ひらの のぶゆき
平野 信行

取締役

ゆうき たいへい
結城 泰平

取締役*

おおきじま いわお
大木島 巖

取締役*

はらだ あぎお
原田 明夫

取締役*

おおとし たくま
大歳 卓麻

常勤監査役

まつき はるお
松木 春夫

常勤監査役

やすだ しょうた
安田 正太

監査役**

いまい たけお
今井 健夫

監査役**

たかすか つとむ
高須賀 昴

監査役**

おかもと くにえ
岡本 園衛

* 大木島 巖、原田 明夫、大歳 卓麻の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

**今井 健夫、高須賀 昴、岡本 園衛の各氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

ホームページのご紹介



<http://www.mufg.jp/>



<http://www.mufg.jp/investors/>

MUFGのホームページは、株主・投資家の皆さま向けに、最新のニュースリリースや業績のご説明のほか、グループの経営戦略、CSR活動などを掲載しています。平成18年4月には、個人投資家の皆さま向けページを大幅リニューアル。株主の皆さまへの還元方針やグループのサービスをまとめてご紹介しています。平成18年度の外部評価会社のIRサイトランキングでは、優秀サイトとして上位にランクイン。これからも株主・投資家の皆さま向け情報発信とコミュニケーションツールのひとつとして、より価値あるホームページをめざしていきます。



大和インベスター・リレーションズ(株)から
ベスト企業賞を受賞



ゴメズ・コンサルティング(株)から
IRサイト優秀企業として評価

株主の皆さまへアンケートのお願い

当社では、今後とも株主の皆さまとのコミュニケーションをより深めてまいりたいと考えております。つきましては、アンケートを実施させていただきたく、大変お手数ではございますが、以下の質問事項へのご回答をご記入のうえ、ご返送くださいますようお願い申し上げます（はがき部分を切り取ってそのままご投函ください）。また、下記URLよりアンケートサイトにアクセスしていただき、ご回答いただくこともできます。（誠に勝手ながら締め切りを平成19年7月31日着までとさせていただきます。）

URL:<https://www.net-research.jp/327222/mufgir>

ミシン目に沿って折り曲げると、そのまま切り取れます

料金受取人払郵便

郵便はがき

1 3 7 8 6 8 2

272

新東京局
承認

513

新東京郵便局私書箱第29号

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株主名簿管理人

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 行

差出有効期間
平成19年7月
31日まで
切手は不要です。



ミシン目に沿って折り曲げると、そのまま切り取れます

該当する番号を○で囲んでください。

ご年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代	6. 60代	7. 70代以上	
居住都道府県 (お住まい)	1. 北海道	2. 東北	3. 関東	4. 中部	5. 近畿	6. 中国	7. 四国	8. 九州・沖縄
性別	1. 男	2. 女						
ご職業	1. 会社員・公務員	2. 会社役員	3. 自営業	4. 専門職	5. 無職	6. 主婦	7. 学生	8. その他()
ご所有 株式数 ()株	当社株式 保有期間	1. 1年未満	2. 1年以上2年未満	3. 2年以上5年未満	4. 5年以上			
三菱東京UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行のご利用状況								
1. メインバンク(主取引銀行)としてご利用 2. メインバンクではないがご利用 3. お取引なし								

ミシン目に沿って折り曲げると、そのまま切り取れます

アンケートのお願い(○印をおつけください)

Q1. 本誌についてのご感想をお聞かせください

1. 前回よりよくなったと思う
 2. 前回より悪くなったと思う
 3. これまでと特に変わらない
 4. 内容が理解できない、面白くない
- ※今後、特に掲載を希望される内容や改善すべき点などご意見をお聞かせください
()

Q2. 当社は、本年9月30日基準で株式の投資単位を現在の10分の1に引き下げることとしました。投資単位引き下げに対するご意見をお聞かせください

1. 前向きに評価できる
 2. 前向きに評価できない
 3. どちらとも言えない
 4. 投資単位を引き下げたことを知らなかった
- ※上記で2または3とお答えになられた方にお尋ねします。理由は何でしょうか
()

Q3. 当社では本年9月30日を第一回基準日として株主優待制度を導入することを決定し、3月29日に発表しました。株主優待制度導入に対するご意見をお聞かせください

1. 前向きに評価できる
 2. 前向きに評価できない
 3. 優待条件が決まらないとどちらとも言えない
 4. 株主優待制度を導入することを知らなかった
- ※上記で2とお答えになられた方にお尋ねします。理由は何でしょうか
()

Q4. 今後、一層の充実を希望される活動がありましたら、お聞かせください(複数回答可)

1. 配当の充実
2. 自社株買いの実施
3. 本誌やホームページ等情報提供内容の充実
4. その他 ()

Q5. その他、当社へのご要望等をご自由にお書きください

ミシン目に沿って折り曲げると、そのまま切り取れます

グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を
グループメッセージとして、
お客さまとのさまざまな
コミュニケーションの場で展開していきます。

Quality for You

このメッセージには、
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして、こうした活動を通じて
地域・社会の発展に貢献していきたい」
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1
電話03(3240)8111(代表)
URL:<http://www.mufg.jp/>

株式に関するお手続についてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
Tel:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

